

直後であり、中華民国が金門島の戦いに敗れたとすれば、台湾まで含めて一気に赤化統一されていた可能性が極めて高かったとされています。実際行ってみると対岸の中国大陆は本当に至近距離ですし、金門島名物は「包丁（刃物類というべきか）」とは聞いていましたが、中国から打ち込まれた砲弾（1958年の金門砲戦では、約1か月半でおよそ47万発の砲弾が撃ち込まれた）の弾殻を素材に用いた刃物店は、街中のあちこちに散見され、最前線の緊張はすでになくなっているものの、そうした歴史をかいくぐってきた島であることが強く感じられました。台湾にとって重要な島であることは、わが国にとっても重要な意味を持っていることに繋がります。分断された国家と国境の概念を肌で感じた視察でした。

次に、9月16日、「護る会」として長崎県対馬へ初めての視察を行いました。外国人の土地所有状況、特に自衛隊基地周辺の実情や厳原など市街地の現状を調べるために伺いました。この視察では多くのことを学び、私のTwitterでも報告いたしましたが、要は「過疎」→「経済の疲弊」→「韓国資本の進出」はワンセットであり、対処療法では解決できないことがわかりました。これは対馬だけの問題ではなく、北海道の水源林などにも当てはまります。ただし対馬の問題が深刻なのは、朝鮮半島と国境を接している地理的な特性です。韓国の現政権は明らかに北朝鮮との統一志向ですから、いわゆる38度線が対馬海峡まで南下してくることがもしも想定されることになれば、わが国の安全保障は根本から見直しを迫られます。

この夏の国会閉会中、私は「国境の守り」という点で共通する、二つの島を見てきました。国を守ることはひとえに国家と国民の努力、すなわち私たち一人ひとりの意識にかかっており、そのための情報を国民に提供し、改善の仕組みを整えるのが政治の役割です。国際社会の中で価値観を共有できる国々と連携する外交的努力、教育における正しい歴史的知識の普及、主体的に国を守る憲法の足らざる点を補う憲法改正など、二つの島の視察を通じて、一層努力しなければならないと改めて感じた次第です。



「護る会」、海上自衛隊対馬防備隊の視察



海上自衛隊対馬防備隊(青色敷地)はこのように買収された韓国資本の土地①②③に囲まれている

地元 王子本町事務所

〒114-0022
北区王子本町1-14-9-202 ヴェージュ エスコルタ
電話:5948-6790 FAX:5948-6791

議員会館事務所

〒100-8982
千代田区永田町2-1-2 衆議院第2議員会館310号室
電話:3508-7601 FAX:3508-3981



自民党員を募集しています! 入党のお申し込みは高木けい事務所までご連絡ください。

自民党は国民政党として広く国民の支持をいただくために、常時党員を募集しています。

一般党員
年額 4,000 円

家族党員
年額 2,000 円

国政レポート 第7号

衆議院議員 高木けい

未来を創る! 新たな挑戦。



第4次安倍改造内閣の新しい顔ぶれが決まり、第200回国会始まる



第200回国会開会日、衆議院正面玄関前

参院選の後、8月1日から5日まで、第199回国会が開かれ、参院議長に山東昭子参院議員を選出しました。その後、横浜で開かれた TICAD7(アフリカ開発会議 8/28~30)、フランス・ビアリッツで開かれた G7などを経て、9月11日、自由民主党の新たな党役員人事、及び第4次安倍改造内閣が発足しました。党・内閣共に中枢は継続性重視の人事、一方で新たな人材も積極的に登用するなど、手堅くバランスよく、かつチャレンジングな布陣になったと感じます。内外に山積するわが国の課題は一刻の猶予も許されません。私も自由民主党の一員として、しっかり努力していく所存です。

10月4日からは、第200回国会が始まりました。会期は12月9日までの67日間。今臨時国会では、不穏な朝鮮半島情勢に対するわが国の安全保障の充実、自由貿易を守るための様々な仕組みの構築、10月1日から

の消費税増税の影響を出来るだけ軽減していくための各種経済対策、同じく同日スタートした幼児教育・保育の無償化等による全世代型社会保障への取組、多発する自然災害に対する国土強靱化と被災地の復旧・復興支援、そして憲法改正への取組などが主なテーマになります。また10月22日は、天皇陛下の即位礼正殿の儀、その後11月14・15日は大嘗祭が予定されています。

この秋は、政治の安定はもとより、内外の課題に的確に対処し、皇室慶事にしっかり取り組まなければなりません。

■スポーツの秋! ラグビーWC 日本代表、グループリーグ4戦全勝!

9月20日に始まったラグビーワールドカップ。開幕戦で日本がロシアに勝ち、次戦で優勝候補の一角アイルランドにも勝利、グループリーグ突破のカギであったサモアにも、ボーナスポイントを加えて勝ちました。そして、運命の第4戦、対スコットランド。4年前のリベンジに燃える日本代表は、あらゆる面で相手を上回り、28-21の見事な勝利。これでグループリーグ全勝、一位通過となりました。これは日本ラグビーにとっての快挙であり、実力で勝ち取ったベスト8。日本代表の素晴らしい活躍で、開幕以来、日本中がラグビー一色になったような、大変な盛り上がりを見せています。

4年に一度の大会ですが、わが国開催のワールドカップを見ることができるとは、「一生に一度」とも言われています。わが国のラグビー人気は、お世辞にも高いとは言えません。記憶をたどるとこの大会を招致したのは2009年ですが、その当時ラグビーWCと言って理解していただける人は、かなり少数でした。前回のロンドン大会で、これも優勝候補の一角と言われた南アフリカに勝利したあたりから、わが国ではラグビーが広く認知されるようになったと感じます。

私はラグビーWCを通じて、改めてスポーツの力のすごさを実感しました。それはやはり勝利へ向けての一体感、勝利した瞬間の喜びと高揚感が、多くの人々に何ものにも替えがたい感動と生きる希望をもたらすからだと思います。ラグビーWCからオリンピック・パラリンピックへ、世界で最も大きなスポーツの祭典の連続開催は、わが国と多くの国民に限りない希望と活力を与えてくれます。

そこでこの機会に、多様な政策テーマに取り組むことが必要です。例えば、外国人観光客に対する利便性の向上はもちろんですが、一方でいわゆるオーバーツーリズム対策も急務です。外国人観光客が増えすぎて起こる問題、例えばインフラの不足により日本人居住者に不便を強いることが起こっていたり、東日本大震災以来日本には公共のごみ箱が極端に少なくなったことで起こるごみ問題、閑静な住宅地内の民泊が引き起こす夜間の騒音や環境問題など、課題は深刻さを増しています。また、これから来年のパラリンピックに向けて、バリアフリーなどユニバーサルデザインのまちづくりは一層進めていかなければなりません。さらに、夏のオリ・パラの最大の課題は暑さ対策とも言われています。どこまで知恵を絞り実現できるのか。このことは環境対策として、大きなレガシーになる可能性があります。この機会に、そうした課題にしっかり取り組むことが重要です。



アイルランド戦勝利の夜、日本代表のユニフォームを着用して
北区花火会開会式に



芝生による緑化で路面温度低減の実証実験
(場所:日本橋、写真提供(株)未来緑化)

■参議院議員・青山繁晴先生をお招きし「第一回 時局講演会」開催



「護る会」青山代表幹事と高木事務局長が堅い握手

9月26日(金)、参議院議員・青山繁晴先生をお迎えし、北区王子・北とびあつつじホールで高木けい後援会主催「第一回 時局講演会」を開催。会場一杯のおよそ500人の方々に駆けつけていただき、大変充実した講演会となりました。

青山繁晴先生から、今わが国は何をなさなければならないのかを中心に、多岐にわたる問題提起をいただきました。特に憲法改正、皇位の安定的な継承に関する課題など、大変刺激的な内容でした。「日本の尊厳と国益を護る会」の設立にも言及され、

「今までできなかったことを実行するための会」であることをはっきりお話しされ、「会の事務局長でもある高木けいさんに期待している」旨のお言葉もいただきました。

私たちの地元北区を中心とする衆議院東京第12選挙区は、自民党の衆議院議員が長年不在だったこともあり、こうした国政に関する講演会を、この間開いたことがありませんでした。高木けい後援会が再編され新たに発会した昨年9月から、国政を身近に感じることでできるこのような講演会を行いたいとの声が多く寄せられるようになり、今回の企画となりました。第二回、第三回と、今後定期的に開催していくことはもちろん、地域ごとの時局講演会も、人数の多寡にかかわらず、是非開催したいと思えます。皆様方には、国政の動きがどのようになっているのか、正に身近な課題としてご理解いただけるよう努力していきます。



会場一杯の参加者の中に入って講演された青山繁晴先生



「護る会」として対馬に関する岡田官房副長官への申し入れ

■二つの視察からわが国を考える 台湾金門島と長崎県対馬

8月26日(月)、私は台湾金門島を視察いたしました。今年は台湾と中国の立場が概ね確定した1949年から70年目。「確定した」というより「確定させた」のがこの金門島をめぐる金門島の戦い(古寧頭戦役)で、その作戦指揮を執ったのが元帝国陸軍北支那方面軍司令官・根本博中将。複雑な歴史と人間関係の中で、根本博中将はなぜ中華民国を助けに行ったのか、そしてその現場はどんなところなのか、そしてわが国にとって台湾と金門島はどんな意味をもつのかなど、様々な思いを整理するためにも、事実上の中台最後の戦いから70年目の今年こそ、その舞台となった金門島を訪問すべきとの思いが高まり、急遽訪問いたしました。

この島は地図を見れば一目瞭然、中国大陸に抱かれるような位置にあり、実際島の北端からは泳いで渡れると思われるほど中国の近くにあり。1949年の金門島の戦い以降、場所が場所だけに、1992年までは一般の観光客は立ち入り禁止、島全体が要塞化されています。船を隠すため、また秘密基地としてつくられたと思われる「翟山(テキザン)坑道」、対岸の中国を監視し、台湾の政治的主張を中国向けに放送する拠点だった「馬山(マザン)観測所」など、その大きさや迫りに圧倒されますが、このような施設や設備は、当時、国を守るために必要だったとしても、平和な今は「戦跡」という慰霊・祈り・歴史学習、あるいは観光の地でしかありません。

1949年の金門島の戦いにおける根本博中将の物語は、『この命、義に捧ぐ(台湾を救った陸軍中将 根本博の奇跡)』(門田隆将著 角川文庫)に詳述されているので、興味のある方はご一読ください。

ところで、金門島の戦いに勝利した中華民国は、ここで中国共産党を食い止めたことにより台湾海峡と台湾島を死守することができました。つまり当時の政治情勢は、米国が中華民国をこれ以上支援しない方針を打ち出した



台湾 金門島 位置図



金門島 馬山観測所から見える中国大陸



弾殻から名物「金門包丁」が作られる